様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１１日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００９　～　２０１１
課題番号：２１５２０２５４
研究課題名（和文）コンピュータによる『カンタベリー物語』Gg 写本と他写本・諸刊本の計量的比較
研究課題名（英文）A Computer-assisted Quantitative Comparison of Chaucer's *Canterbury Tales* (Gg MS, Other MSS and Several Editions)
研究代表者
地村　彰之（JIMURA AKIYUKI）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：００１３１４０９

研究成果の概要（和文）：
本研究では、『カンタベリー物語』の Gg 写本と他の写本やテクストとの間に生じた異同の問題を取り上げた。『カンタベリー物語』Gg.4.27 写本のデータ入力をすすめた。『カンタベリー物語』Hengwrt 写本と Ellesmere 写本および Blake 版・Benson 版などのテクストが容易に比較できるようにパソコンでテクスト処理をした。Gg 写本の写字生は頻繁に過去分詞を示す接頭辞 *y-* を落としたと言われるが、接頭辞 *y-*を付けているところもあるということが分かった。Gg 写本 0396 では、わざわざ接頭辞を有標化して "I-"と表しているところは特徴的である。

研究成果の概要（英文）：
This project is an interim report of a comprehensive textual comparison of Chaucer's *The Canterbury Tales* (MS Gg, MS Hg, MS El, Blake's Edition, Benson's Edition). We have intended to make a contribution to Chaucerian textual criticism by clarifying the textual similarities and differences among the manuscripts and editions. It is an important fact that the scribe of Ms Gg took the trouble to add the prefix *y-* to the past participles, though it is said that he ignored the prefix *y-*. It is noticeable that the scribe intentionally used the marked prefix "I-" in MS Gg.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文字
キーワード：チョーサー、『カンタベリー物語』、Gg 写本、他写本、諸刊本、コンピュータ、計量的比較

１．研究開始当初の背景

(1) チョーサーの *The Canterbury Tales*（『カンタベリー物語』）諸刊本について計量的比較を行った。その成果は『コンピュータによるチョーサーの「カンタベリー物語」諸刊本の計量的比較』（平成５年度 科学研究費補助金（一般研究（C））研究成果報告書、研究代表者 地村彰之、広島大学学校教育学部），1994.3 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）として発表した。

(2) チョーサーの *The Canterbury Tales* 諸刊本の中で、F. N. Robinson 版テクストと N .F. Blake 版テクストについて各行ごとの比較を試みた。その成果は、科学研究費補助金「研究成果公開促進費」を受領して、A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive List of Textual Comparison between Blake's and Robinson's Editions of* The Canterbury Tales (Okayama: University Education Press, 1995) という形で出版し公表した。

(3) チョーサーの *Troilus and Criseyde*（『トロイラスとクリセイデ』諸刊本について計量的比較を行った。その成果は『コンピュータによるチョーサーの「トロイラスとクリセイデ」諸刊本の計量的比較』（平成 7 年度- 平成 8 年度 科学研究費補助金（基盤研究（C)(2)）研究成果報告書、研究代表者 地村彰之、広島大学学校教育学部），1996.3 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）として発表した。

(4) チョーサーの代表作である *Troilus and Criseyde*（『トロイラスとクリセイデ』）についてもテクスト比較研究を試みた。その成果は、科学研究費補助金「研究成果公開促進費」を受領して、A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive Textual Comparison of* Troilus and Criseyde (Okayama: University Education Press, 1999)という形で出版し公表した。

(5)チョーサーの夢物語詩諸刊本について計量的比較を行った。その成果は『コンピュータによるチョーサーの夢物語詩諸刊本の計量的比較』（平成１１年度- 平成１２年度 科学研究費補助金（基盤研究（C)(2)）研究成果報告書、研究代表者 地村彰之、広島大学文学部），2001.3 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）として発表した。

(6) *Troilus and Criseyde* 以前に書かれた夢物語詩 *The Book of the Duchess*, *The House of Fame*, *The Parliament of Fowls* の諸刊本のテクスト比較研究を行った。その成果は、科学研究費補助金「研究成果公開促進費」を受領して、A. Jimura, Y. Nakao and M. Matsuo, eds. *A Comprehensive Textual Comparison of Chaucer's Dream Poetry* (Okayama: University Education Press, 2002)という形で出版し発表した。

(7) *The Legend of Good Women* （『善女列伝』）諸刊本の計量的比較を試みた。その成果は、『コンピュータによるチョーサーの『善女列伝』諸刊本の計量的比較』（平成１３年度～平成１４年度 科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書、研究代表者 地村彰之、広島大学文学部），2003. 3 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）として発表した。

(8) *The Romaunt of the Rose*『薔薇物語』諸刊本のテクスト比較を行った。その成果は『コンピュータによるチョーサーの『薔薇物語』諸刊本の計量的比較』（平成１７年度～平成１８年度 科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書、研究代表者 地村彰之、広島大学大学院文学研究科），2007. 3 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能）として発表した。

２．研究の目的

(1) 本研究の目的は、コンピュータを利用し、ジェフリー・チョーサーの英語の語彙・統語・文体を総合的に研究し、チョーサーの textual criticism に貢献することにある。

(2) 今回は、『カンタベリー物語』の Gg 写本と他の写本やテクストとの間に生じた異同の問題を取り上げた。『カンタベリー物語』Gg.4.27 写本、『カンタベリー物語』Hengwrt 写本と Ellesmere 写本および Blake 版・Benson 版などのテクストを比較することによって、写本間や刊本間における類似点と相違点を見いだし、チョーサー自身の言語再建への糸口を見つけることを目的とする。特に今回はチョーサーのテクストの伝統と継承という視点から、チョーサーの言語を総合的に見ることをめざしている。

３．研究の方法

(1) 上記研究目的を達成するために、『カンタベリー物語』の Gg 写本と他の写本やテクストとの間に生じた異同の問題を取り上げた。『カンタベリー物語』Gg.4.27 写本のデータ入力をすすめた。『カンタベリー物語』Hengwrt 写本と Ellesmere 写本および Blake 版・Benson 版などのテクストが容易に比較できるようにパソコンでテクスト処理をした。

(2) Gg 写本の写字生は頻繁に過去分詞を示す接頭辞 *y*-を落としたと言われるが、接頭辞 *y*-を付けているところもあるということが分

かった。以下の例のように、下線部ではわざわざ接頭辞を有標化して “I-”と表しているところは特徴的である。
HG:7r GP0398 Ful many a draghte of wyn / hadde he drawe
EL:5r GP0398 Ful many a draughte of wyn / had he drawe
BL:GP0398 Ful many a draghte of wyn hadde he drawe
BN:GP 0396 Ful many a draghte of wyn had he ydrawe
Gg 写本 0396 fful manye a drau□t of weyn hadde he I-drawe

(3) テクストの語彙に主たる焦点を当てて、テクスト比較ができるようにパソコンで処理し、特に相違がみられるところは、写本にさかのぼって調査しその理由について考察する。このためのプログラムについては、共同研究者松尾(1994)の手法と成果を利用した。

(4) 連合王国、Oxford 大学セントピーターズ学寮 Hoad 教授に研究経過を報告し、指導・助言を受けた。

４．研究成果
（1）データ入力及び整理、語彙文体調査をした。

（2）地村彰之と中尾佳行の 2 名が 2010 年 7 月、イタリア・シエナで開催された第 1 7 回新チョーサー協会国際大会（平成 22 年 7 月 14 日～平成 22 年 7 月 19 日）に出席し発表した。松尾雅嗣は病気のため欠席した。学会での成果の意義・波及効果は以下のとおりである。
(a) Collation という方法とそれに基づく統計的実証データを提示した報告は高い評価を得、本研究が国際的にも最先端をいくものであることが確認できた。また、報告に対する質問、例えば写本における飾り文字の一瞥の出現頻度に関する質問や評言は、今後研究方向を考える上で大いに参考になった。
(b) Estelle Stubbs 博士などチョーサーの写本研究の専門家との意見交換は、本研究の進展に大いに参考になった。
(c)本研究は、世界におけるチョーサーの本文校訂研究に大きく貢献するものであると考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）
①Akiyuki Jimura, “On the Decline of the Prefix y- of Past Participles,” *From Beowulf to Caxton: Studies in Medieval Languages and Literature, Texts and Manuscripts, Studies in Historical Linguistics* (Vol. 7), 215-228, 2011、査読有

②地村彰之[書評] Lynda Mugglestone ed., *The Oxford History of English*, (Oxford: Oxford University Press, 2006)『近代英語研究』(近代英語協会)第 26 号 79-85, 2010、査読有

③地村彰之「英米と日本の地名についての覚書」『広島日英協会会報』No.86, 5-7, 2010、査読無

④ Akiyuki Jimura, "Impersonal Constructions and Narrative Structure in Chaucer," *Aspects of the History of English Language and Literature*, edited by O. Imahayashi, Y. Nakao, and M. Ogura (Frankfurt am Main: Peter Lang), 93-100, 2010, 査読有

⑤地村彰之、「言の葉と地の名—ことばから見た英米と日本の地名についての覚書—」小迫勝、瀬田幸人、福永信哲、脇本恭子編『英語教育への新たな挑戦—英語教師の視点から—』（英宝社）184-192, 2010, 査読有

⑥Nakao,Yoshiyuki, Akiyuki Jimura, Masatsugu Matsuo, “A Project for a Comprehensive Collation of the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake[1980] and Benson[1987]) of The Canterbury Tales,” *Hiroshima Studies in English Language and Literature*, Vol. 53, 1-22, 2009、査読有

⑦地村彰之「Chaucer の写本と刊本における「接頭辞 y- 付き過去分詞」覚書」『IPSHU 研究報告シリーズ研究報告』No. 42（松尾雅嗣教授退職記念論文集）373-383、2009、査読無

⑧地村彰之、[書評] 寺澤盾著『英語の歴史－過去から未来への物語』(中公新書 1971)（中央公論新社、2008. 10）『Web 英語青年』155 巻 3 号、50－52、2009、査読無

〔学会発表〕（計５件）
① Akiyuki Jimura, “Some Notes on Idiomatic Expressions in the History of English: From Chaucer to Dickens,” Middle and Modern English Corpus Linguistics 2011（招待発表）, 28 August 2011, Nakanoshima, Osaka university

②地村彰之、「イディオムの変遷」ディケンズ・レキシコン研究会、2011 年 3 月 9 日、韓国大田大学(韓国)

③Yoshiyuki Nakao and Akiyuki Jimura, “Some textual discoveries from a multi-layered comprehensive collation across the Two Manuscripts (Hengwrt and Ellesmere) and the Two Editions (Blake (1980) and Benson (1987)) of *The Canterbury Tales*” The 17th Congress of the New Chaucer Society（招待発表）19 July, 2010, Siena, Italy

④地村彰之、「イディオムの変遷－Chaucer から Dickens へ」大阪大谷大学英文学会講演会大阪大谷大学英文学会講演会（招待発表）2010 年 1 月 7 日、大阪大谷大学

⑤Akiyuki Jimura, “Impersonal Constructions and Narrative Structure in Chaucer,” The 3rd International Conference of the Society of Historical English Language and Linguistics（招待発表）28 August 2009, Hiroshima University

〔図書〕（計 5 件）
①地村彰之『チョーサーの英語の世界』2011、査読有、iii+245、渓水社

②水田英美、山代宏道、中尾佳行、地村彰之、原野昇『中世ヨーロッパの祝宴』渓水社、2010、査読有、178

③『英語フィロロジーとコーパス研究—今井光規教授古希記念論文集—』（Akiyuki Jimura, "A Historical Approach to Variant Word Forms in English,"執筆、185-194）、松柏社、2009、568 pp.

④Y. Nakao, M. Matsuo, A. Jimura (eds.) *A Comprehensive Textual Collation of Troilus and Criseyde*: Corpus Christi College, Cambridge, MS 61 and Windeatt (1990) 2009、査読有、xvi + 398

⑤水田英美、山代宏道、中尾佳行、地村彰之、原野昇『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』（「古期英語の伝統と刷新 —「海行く人」の継承—」執筆）渓水社、2009、査読有、201

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
地村　彰之（JIMURA AKIYUKI）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00131409

(2)研究分担者
松尾　雅嗣（MATSUO MASATSUGU）
広島大学・平和科学研究センター・教授
研究者番号：40106787
中尾　佳行（NAKAO YOSHIYUKI）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：10136153